

---

# 壁

キノコマン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
壁

【コード】  
N3696A

【作者名】  
キノコマン

【あらすじ】  
壁にぶつかったことは、ありますか？

人生、思わぬ所で壁にぶつかることがあるだろう。  
道を歩いていたら何かに、ぶつかった。

此処は、人通りも多く人に当たってしまったのだろうか、いや違う  
本当に壁があるのだ。

電話ボックスに閉じ込められたみたいだ。  
壁を触っていると、まるで外から見るとパントマイムをしている人  
のように見える。

外の人は不思議そうに通り過ぎていく、これでは良い見せ物だ。  
俺は、外の連中に叫んだ。

「助けてくれよ！なんかさ、目の前に壁があるんだよ、レスキュー  
隊呼んでくれよ。」

周りの人はまるで聞こえていないようだ。

「おまえら無視すんじゃねえよ！」

俺は壁を叩いた、外には聞こえていないようだ。

「どうしたら良いんだよ、このまま出れなきゃ確実に死が待ってる  
ぜ。」

あれから数時間たち、お腹もすいてきた、そうだバッグの中にチヨ  
コレートがあっただ。

バッグの中からチヨコレートを取り出す。

「タララタタラー チヨコレート、遭難した時の必需品なのだ。」  
きつと、都会の真ん中、しかも、人込みの中で遭難したのは俺だけ  
だろう。

そうだ携帯が有ったんだ、これで助けが呼べる、助かった！。  
家に電話することにした。

「圏外…、嘘だろ！周りの奴ら、携帯使ってんじゃねえかよ！なん  
で俺だけ圏外なんだよ。」  
そして俺はひらめいた。

「そつだ携帯に文字書いて見せれば良いんじや。」

しかし、何を書けば良いんだ…。

「なんて書こうかな、俺の周りに壁があるんだよ動けないんだ！  
何とかしてくれ」これでよし。」

外の奴らに携帯画面を見せた、すると向こうからも携帯画面をこちらに見せてきた。

『よじ登れ、乗り越えろ、負けるな頑張れ！』

壁の上を触ると乗り越えられそうだった。

「これが、人生の壁なんだな。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3696a/>

---

壁

2010年10月15日22時46分発行